

「浦添ふ頭地区における民港の形状案の作成にあたっての考え方（案）」を公表します。

令和2年10月29日に開催された那覇港管理組合構成団体調整会議において、下記3点が確認されましたので、現段階でのとりまとめ案として公表します。（※詳細は次ページ以降に掲載）

1. 浦添ふ頭地区における民港の形状案の作成にあたっての考え方（案）
2. 「浦添ふ頭地区における民港の形状案の作成にあたっての考え方（案）」のイメージ図（案）
3. 「浦添ふ頭地区における民港の形状案の作成にあたっての考え方（案）」についての浦添ふ頭地区調整検討会議における議論内容

令和2年11月16日

那覇港管理組合

## 浦添ふ頭地区における民港の形状案の作成にあたっての考え方(案)

令和2年10月29日

那覇港管理組合構成団体調整会議

- 浦添ふ頭と新港ふ頭の国内外海上輸送網及び流通加工等の物流施設の一体的利用とともに、那覇空港とのシーアンドエアも活かし、アジアへの多様な速度帯による重層的な航路サービスを全国・アジアの荷主に提供する、アジアの中継拠点港としての物流空間を創出する。
- 地域振興のための産業拠点として、浦添ふ頭と新港ふ頭の物流空間の一体的利用や中城湾港との連携により臨空・臨港型の産業等の導入を図る。
- 富裕層の長期滞在型観光の拠点となる世界水準の観光リゾート地を形成するため、浦添の自然環境を活かすとともに、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した観光・ビジネス拠点を含む交流空間を創出する。
- 空間配置に関し、交流空間は、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定した観光・ビジネス拠点の形成、都市軸との連続性、交流空間からの景観を考慮する。また、交流空間と物流空間の間を繋ぎ、多様な機能の調和により新たな価値を創造する空間を配置する。物流空間は、それらの空間の配置に対応しつつ新港ふ頭との一体的利用による効率的な物流体系の構築を考慮し配置する。
- 県全体・背後地域における将来の産業戦略、中城湾港との機能分担、那覇港における課題及び需要や、両空間を繋ぐ空間の利用形態等の検討を踏まえ、物流・交流空間の規模及び配置を検討する。
- 人と自然が共生する良好な港湾環境の形成を図るため、自然的環境を保全する空間を配置する。
- 以上の内容に基づき、浦添ふ頭地区調整検討会議において浦添ふ頭地区の民港の形状案を作成し、那覇港管理組合構成団体調整会議に諮る。なお、民港の形状案の作成過程において、那覇港における課題及び需要等の分析結果を踏まえ、上述の考え方に係る内容を確認する。

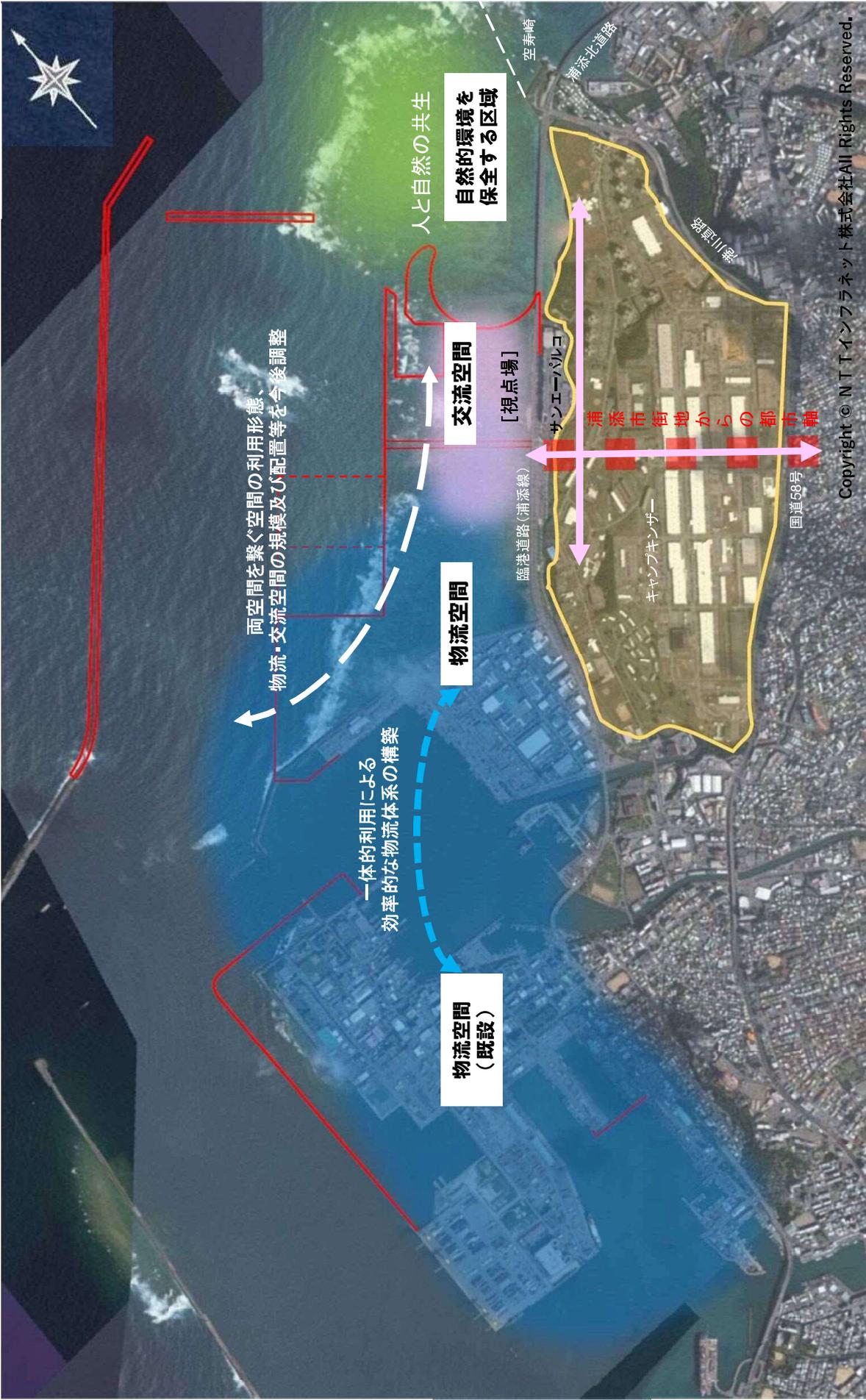
# 「浦添ふ頭地区における民港の形状案の作成にあたっての考え方(案)」のイメージ(案)



※図中の赤線は既定計画

R2.10.29 那覇港管理組合構成団体調整会議

Naha Port Authority



Copyright © N T T インフラネット株式会社 All Rights Reserved.

令和2年10月29日

那覇港管理組合構成団体調整会議

「浦添ふ頭地区における民港の形状案の作成にあたっての考え方」(案)  
についての浦添ふ頭地区調整検討会議における議論内容

1. 今後の国際流通港湾機能の方向性について、既定計画で想定した欧米向け国際トランシップ貨物の取扱いを目指す考え方を見直し、東アジアネットワークと国内ネットワークをつなぐ、東アジアの中継拠点としての展開を図る。【NPA】
2. 「PORT2030」(平成30年7月策定)と国の「基本方針」(令和元年6月抜本改正)においても、「多様な速度帯による重層的な航路網を構築することが必要」が位置付けられ、国策としても意義がある。【NPA】
3. 内貿貨物量が既定計画の想定を超えており、新港ふ頭地区を利用する港運会社から、「物流用地の狭隘さや上屋の老朽化による作業効率の低下」の声が寄せられている。【NPA】
4. 新港ふ頭地区と浦添ふ頭地区を臨港道路で繋いで一体的に利用するとともに、那覇空港との近接性を活かしたシーアンドエア輸送環境の充実や産業育成が重要である。【沖縄県、那覇市、NPA】
5. 中城湾港との機能分担・連携を踏まえた検討が必要。中城湾港においては、産業支援港湾としての位置づけを踏まえ、工業等の生産機能の立地を中心に促進し、那覇港は物流施設等の流通機能の立地を中心に推進する。【沖縄県、NPA】

6. 沖縄県のリーディング産業は、観光リゾート産業、情報通信産業であり、新たなリーディング産業として臨空・臨港型産業が期待されている。また、ものづくり産業の振興は重要であることから、製造業等の強化を図る。

【沖縄県】

7. 那覇市のリーディング産業であり、将来も市の成長を支えることが期待される産業は、観光関連産業、情報通信産業、物流産業である。【那覇市】

8. 浦添市のリーディング産業は、物流産業、情報通信産業、金融・保険・不動産業、卸・小売業であり、将来も市の成長を支えることが期待される産業は、観光関連産業、情報通信産業である。【浦添市】

9. 浦添ふ頭地区の交流空間は、富裕層等の長期滞在型観光の拠点として、他のリゾートとの差別化を図るため、「PORT2030」や国の「基本方針」を踏まえ、浦添の自然環境を活かすとともに、牧港補給地区跡地との一体的利用を想定し、ワーケーションを含む観光・ビジネス拠点の形成を図る。【浦添市】

10. 交流空間の配置に当たっては、浦添市街地から海岸線までを結ぶ都市軸と交流空間との連続性を確保するとともに、交流空間を視点場とした景観も考慮すること。【浦添市】

11. 物流空間と交流空間を単に切り分けるのではなく、両空間を繋ぐ空間の利用計画を検討し、多様な機能の調和がとれた港湾空間の形成を図ってはどうか。沖縄、那覇港の個性をどのように活かして地域活性化を図るかが重要。【NPA】  
「PORT2030」における「ブランド価値を生む空間形成」の考え方を踏まえ、多様な機能の調和による新たな価値を創造する空間の形成を図ることに賛同する。  
【浦添市】

12. 「自然環境を保全する区域」を引き続き確保し、確実な保全を前提としつつ、海洋レジャーによる海洋利用・教育を促進する。【浦添市】

補足 1:【〇〇】は主な発言者 、 補足 2:「NPA」は「那覇港管理組合」の略称